

大阪のものづくりが産み出したイモノ大集合。
奇抜なカタチやデザイン、機能美も豊かな製品を紹介。



大阪府内のものづくり中小企業の優れた技術・
創造力にあふれた製品(消費財)を、「大阪製」
としてブランド認証しています。

<http://www.osakasei.m-osaka.com/>



A クリエイターの発想力と
匠の技が融合した動物スツール。



頭を含め、すべて手作業
でブロック状のウレタンを
カットし、ボンドで貼り合
わせながら成形している



手染め注染独特の風合いと
機能性を生かした日傘。



多数の白い点の表現には
高度な染め技術が必要。
最小となる1.5mm程度の
白い点を表現できるのは、
大阪府内でも数少ない職
人だけだという。

B

0.9mmの薄さが生んだ
高いデザイン性と新しい機能性。



若手デザイナーとコラボ
レーションして生まれた
パッケージデザインは、延
長コードには見えない斬
新な仕上がりに。



A

愛らしい動物の形をした椅子(スツール)『Frien' Zoo Stool』
が誕生したきっかけは、CEMENT PRODUCE DESIGN
の金谷勉氏との出会いだった。「金谷さんから動物の形
をした座椅子を作る提案をいただいて、その発想の面白さ
に一度やってみようと思った」と語るのは、専務取締役
役の金田善弘氏。打ち合わせを重ねる中で座椅子からス
ツールとなったが、顔部分のウレタン成形や複雑な張り地
の縫製など、日本の職人しかできない匠の技が随所に生
かされている。「クリエイターの発想力はやはりすごい。商
品の『面白さ』は大切に、少し高価格でも個性的なものを
求める人は必ず存在しますからね。さらに『魅せる商品』と
位置づければ、人目を引いたりコンセプトを伝える役割を
持つので、私たち作り手にとっても不可欠な商品とも言
えますね」と金田氏。

☎ Frien' Zoo Stool

株式会社カナタ製作所 SWITCH事業部

ソファやスツールといった『座る家具』を中心に、インテリア家具の製
造販売を行う。Frien' Zoo Stoolは象、馬、らくだの3種を販売中。今後
は動物の種類を増やす計画もあるとか。

<http://www.switch-works.com/>

B

『FLAT CODE』は0.9mmの薄さが特徴の延長コードだ。
壁の裏やカーペットの下などに配線しやすく、Pタイルの
床に両面テープで貼って固定できる上、コードによる段差
をなくすことで従来の延長コードが抱える機能的弊害を
解決している。「下請けとしての業務が減少する中で、何
か新しいことに取り組む必要性を感じ、アルミを使った自
社製品の開発に取り組んだのが最初です」と語るのは、
代表取締役の潮田和広氏。そして従来の延長コードに
使われる銅線に代わって同様に通電するアルミを使い、
薄くて平たい延長コードを発想した。「最終製品はアルミ
ではなく銅線を使用しましたが、これまで培ってきたアルミ
素材の知識のおかげで『FLAT CODE』を開発できた」と
語る。今後は自社ブランド立ち上げを目指して、さらに自社
商品を開発していくつもりだ。

☎ FLAT CODE

ダイケイ産業株式会社

アルミをはじめとした非鉄金属製品や材料加工を行うダイケイ産業。
創業当初は素材卸専門だったが、現在は加工機や切削機を導入し、
アルミを中心とした非鉄金属の部品製造や材料加工も行っている。

<http://www.daikai-s.com/>

C

UV加工をしていないにも関わらず紫外線遮蔽率80%以
上という日傘としての機能性と、手染め注染手ぬぐい独
特の風合いや風通しの良さを両立させた『手染め注染日
傘』。その両立を実現した秘密は染料にある。「日光によ
る色あせを抑えるため、スレン染料での染色を採用しまし
た。この染料は扱いが難しく、膨大な手間と高い職人技術が
必要なんです。一握りの会社のみで染色されています」と、
事務局長の福田氏。しかも、染色は堺と柏原、手ぬぐい
の生地は泉州で和晒加工は堺、完全手作業となる傘づく
りは東大阪と、すべての生産を大阪府内でまかなっており、
まさにオール大阪製の一品と言える。「職人技術ありきで
はなく、使い勝手やお客様のニーズの実現にどう職人技
術を生かすかが重要。今後は、今ある11種類の柄に加え
る新柄開発にも取り組みます」と福田氏。

☎ 手染め注染日傘

大阪府織物染色協同組合(オリセン)

大阪府織物染色協同組合は、堺市や柏原市に本社を置く和晒(わざ
らし)や染色の協同組合。和晒部・注染部・捺染(なっせん)部・整理
部の4分野に分かれている。手染め注染日傘は12,600円(税込)。

<http://www.osaka-orisen.com/>

編集後記

企業グループをつくって企業連携を見える化する。巻頭特集の大
阪ケイオスは見える化した上に法人化も実現。企業同士の関係
性が強い一方で、事業の意思決定のゆるさという柔軟さを大切
にする風土があります。しかも、発言は自由、実現するプロセスも自
由という、実に大阪らしい取組みで経営者達がひとつになっている。
そういう「大阪らしいつながり」を拡げて企業同士の壁を取り払い、
大阪ケイオスみたいな付合いが大阪全域でできれば、新規事業・
販路開拓がもっと加速するのではないのでしょうか。(浅野)

スタッフ

企画・編集
株式会社ファイコム

編集長
浅野 由裕 (faycom)

ライター

清野 礼子 / 中直照 / 町田 佳子 / 山口 裕史

写真
北尾 浩幸

アートディレクター
北村 竜司 (CURRENT)

印刷

有限会社山添

発行

MOBIO (ものづくりビジネスセンター大阪)
大阪府商工労働部 商工振興室 ものづくり支援課
〒577-0011 東大阪市荒本北1丁目4番17号(クリエイション・コア東大阪内)
TEL_06-6748-1011 FAX_06-6745-2362
<http://www.m-osaka.com/>

2013年3月29日 発行